国際教育･国際交流の現状と課題
～全国聾学校アンケート調査より～

佐坂　佳晃

「国際教育・国際交流」に関するアンケート調査は、「第 48 回全日本聾教育研究大会（兵庫大会）、国際教育・国際交流分科会」の開催に際し、活発な議論や情報交換がなされることを期待して、本校が中心となり全国の聾学校（聴覚障害者を主たる対象とする特別支援学校）に依頼し実施した。本稿では調査の結果明らかになった「国際教育・国際交流」に関する全国の学校の実態やそれに応じた様々な活動、あるいは課題等について述べてみたい。

【キーワード】　「国際教育・国際交流」に関するアンケート調査　国際理解　国際交流活動

1　はじめに

世界の国々との関係がより深まる昨今、聴覚障害教育においても「異文化や多様性の受容と理解」、「共生」、「コミュニケーション能力の育成」が重要視されている。こうした中、海外の聴覚障害教育の現状について知り、世界的視野に立った教育の在り方を研究するため、平成２５年度より全日本聾教育研究大会の分科会として「国際教育・国際交流」分科会が設置された。

「国際教育・国際交流」に関するアンケート調査は、全国の聾学校（聴覚障害者を主たる対象とする特別支援学校）における「国際教育・国際交流」に関する実態を明らかにすることで、上記分科会が実りあるものになることを目的として実施された。

2　方法

(1)　対象

全国の聾学校（聴覚障害者を主たる対象とする特別支援学校）９６校の幼稚部から専攻科までの幼児児童生徒。

(2)　手続き

「国際教育・国際交流」に関するアンケート調査（付録）は、全国の聾学校長宛てに配布され、回答と回収を依頼した。

調査時期は 2014 年 6 月である。

3　質問１　幼児・児童・生徒数について

(1)　内訳

幼児児童生徒数の内訳については、表１・表２に示す通りである。

なお発送数９６校に対して、回答数は **76 校（79%）であった。**

表１　在籍学部別内訳と在籍幼児児童生徒数別内訳

発送数	回答数	在籍学部別内訳							
96 校	76 校（79%）	幼小中高専	幼小中高	幼小中	幼小	高専	小中	中高	中高専
		19 校	33 校	18 校	2 校	1 校	1 校	1 校	1 校
		在籍幼児児童生徒数別内訳							
		30 名未満		30 名以上 60 名未満		60 名以上 90 名未満		90 名以上	
		21 校		20 校		20 校		15 校	

表２　学部別の平均在籍幼児児童生徒数

平均在籍幼児児童生徒数／在籍学部数	
幼稚部（12.0 名／72 校）	小学部（20.1 名／73 校）
中学部（14.6 名／73 校）	高等部（21.2 名／55 校）
専攻科（ 6.9 名／21 校）	

4　質問２　国際理解につながるような教育活動の有無について

回答のあった 76 校のうち 73 校（96%）の学校が、何らかの形で国際理解につながるような教育活動を行っていることが分かった。

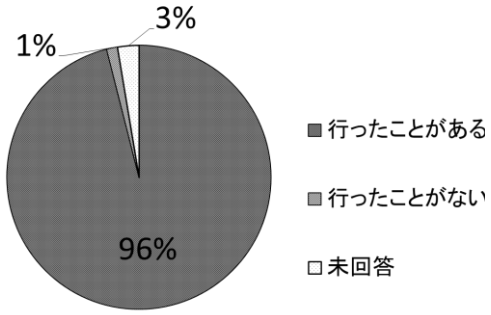


図１　国際理解につながるような教育活動の有無について

5　質問３　国際理解につながる教育を行っている部局と枠組み

国際理解につながる教育を行っている部局と枠組みについては、表３に示す通りである。

表３　国際理解につながる教育を行っている部局と枠組み

	幼稚部	小学部	中学部	高等部	専攻科	全校
英語の授業の中で行った。	0	37	53	38	8	1
ALT による英語の授業の中で行った。	4	46	52	40	6	0
英語以外の授業の中で行った。	12	23	22	22	2	1
特別活動の中で行った。	2	14	10	7	0	2
総合的な学習の時間の中で行った。	0	25	23	11	0	2
行事として行った。	6	7	8	8	0	5

教科（英語）や ALT の関係で中学部での実施が多い。また全校で取り組んでいる学校は 7 校と少なかった。そのうち 2 校は複数の教科や教科以外の領域で取り組んでいた。

6　質問３の１　授業の内容について

ALT はほぼどの学校にも配属されており、彼らを軸に英語等の授業で国際教育を展開している。

授業の内容については、以下の通りである。

［英語］

・ALT から英語の歌を教わったり、ゲームをいっしょにしたりした。

・ALT の出身地の生活や行事について教えてもらった。

［社会（地理、世界史、現代社会）］

・世界の住居の違い（気候などによって工夫していること）。

・国際社会と日本の役割について。

［家庭科］

・各国の料理を調理。

・各国の食文化の違い。世界のカロリー摂取量の違いを調べる。

・食物分野で各国の名物料理と主食、被服分野で民族衣装、住居分野で家の構造。

［音楽］

・ALT から英語の歌を教わった。

・日本で歌われている曲と、その原曲について学んだ。

・他国からのお客様に演奏を披露したり、いっしょに「手遊び」をしたりした。

7　質問３の２　特別活動、総合的な学習の時間、行事の中で扱った内容や様子について

この質問については、以下に示すことが分かった。

・総合的な学習の時間で行われていることが多い。

・日本の「おもてなし」の心について調べ、ALT を招いてお茶会を催した。

・行事では「ハロウィン」を題材にした学校が多い。次いで「クリスマス」「イースター祭」と行われている。

・JICA を訪問し、説明を聞いた。
・JICA に参加した経験のある人に講演をしてもらった（JICA 利用は３校）
・文化祭での発表。（文化祭に向けて“世界がもし 100 人の村だったら”のビデオ鑑賞を行った。）
・タオル、ペットボトルキャップ、使用済み切手の収集で海外支援。
・日本で開催されたイベントに参加した外国人との交流。（世界デフゴルフ、日本ジャンボリー）

8　質問４　国際交流活動の有無について

国際交流活動の有無については、図２に示す通りである。

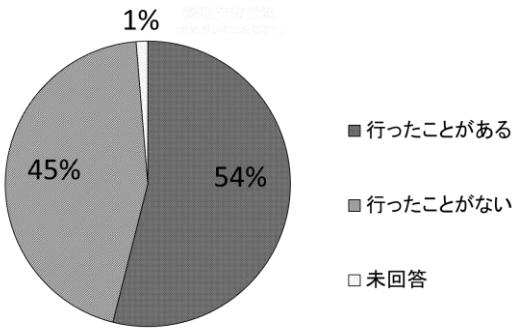


図２　国際交流活動の有無について

幼稚部から専攻科までの、いずれかの部もしくは学校全体で、国際交流活動を行ったことがあると回答した学校は４１校で５４％であった。

9　質問５　国際交流活動の内容

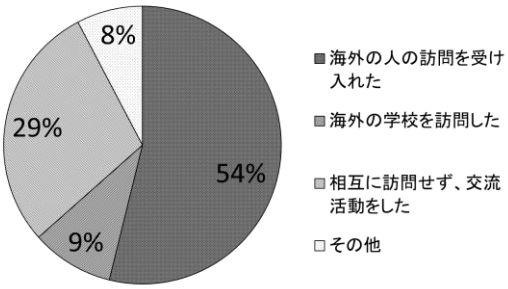
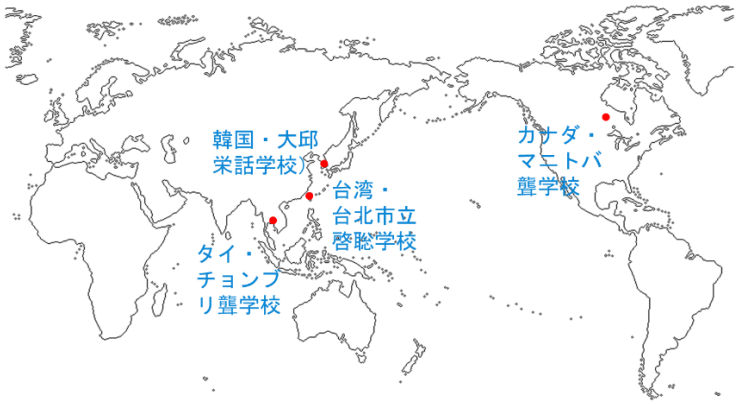


図３　国際交流活動の内容

国際交流活動の内容については、図３に示す通りである。

交流では、スカイプの利用(４校)、文通(８校)も見られた。留学生や研修生との交流も行われている。また修学旅行（高等部、韓国：大邱栄話学校）でスポーツ交流や買い物を行った学校もあった。この学校では手話を使った日韓インターネットライブ交流も実施された。

訪問では韓国、台湾、中国など、近隣の国が多い。その中で姉妹校提携を結んでいる学校が３校あった。
①カナダ･マニトバ聾学校（日本の学校が訪問した。）
②台湾･台北市立啓聡学校（日本の学校が訪問した。）
③タイ・チョンブリ聾学校（スカイプ利用）



姉妹都市と交流を実施している学校もあった（中国慶尚南道と）。この学校は韓国、東南アジア諸国とも交流を行っている。

今回の回答の中で国名が記載されたのは、次に示す 33 カ国である。
韓国、中国、台湾、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、ネパール、モンゴル、インド、パキスタン、バングラデシュ、モルディブ、アフガニスタン、ウズベキスタン、ヨルダン、オーストラリア、ニュージーランド、アイルランド、ドイツ、ルーマニア、チェコ、デンマーク、スウェーデン、ロシア、ベラルーシ、カナダ、メキシコ、アメリカ、ベネズエラ、ペルー、ブラジル　以上である。

なお外国からの訪問は２８校で、訪問数の多い国はアメリカ：9 校、韓国･中国：7 校、カナダ３校、オーストラリア･台湾・フィリピン･タイ：2 校となっている。

図４は、質問５でａの「海外の人の訪問を受け入れたことがある」と答えた学校の国際交流活動の経緯について示している。その内訳は　自治体からの紹介が 3 件、民間団体からの紹介が 13 件、学校が計画を立てて進めたが 17 件である。

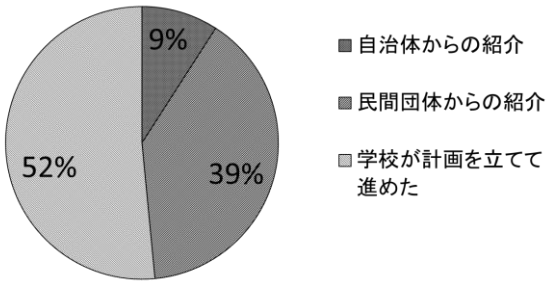


図４　国際交流活動の経緯

質問５でａの「海外の学校を訪問したことがある」と答えた学校（6 校）は、すべて学校が計画を立てて進めている。

「海外からの訪問を受け入れる」場合も「海外の学校を訪問する」場合も、学校が主体となり計画が立てられている実態が明らかになった。

10　質問６．国際教育・国際交流でのメリット

図５に示す通り国際教育・国際交流を行うメリットについては「グローバル感覚の育成」よりも、「児童生徒の視野の拡大」が多かった。自校の幼児児童生徒に、より必要な力は「視野の拡大」であることが推察される。

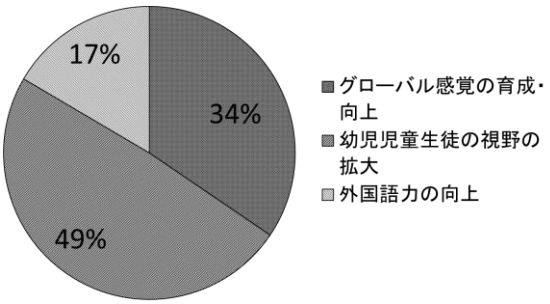


図５　国際教育・国際交流を行うメリット

11　質問７．国際教育・国際交流を行っていく上での困難

図６に示す通り国際教育・国際交流を行っていく上での困難として「時間数の確保」を挙げる学校が多かった。次いで「外部団体や海外とのつながりのなさ」となっている。

回答の中で「生徒は外国人との直接の交流が難しく、教員が間に入らなければならない。」、「障害の特性に応じた情報保障の問題」等の問題が挙げられていた。

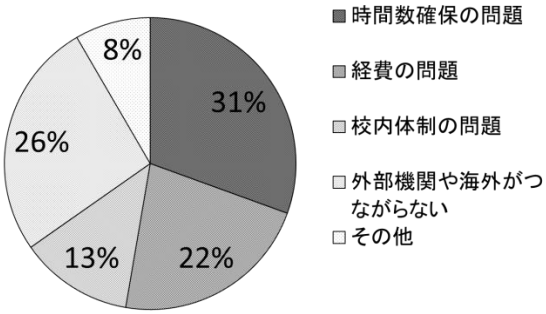


図６　国際教育・国際交流を行っていく上での困難

12　今後の課題

今回のアンケート調査を通して、全国の多くの聾学校が国際教育・国際交流に積極的に取り組み始めようとしている様子が明らかになった。今後は各校の実態に合った形で、さらに様々な取り組みが行われていくものと思われる。その中で国際教育・国際交流を行っていく上での困難の一つである「どのようにして外部団体や海外とつながるか」については、例えば聾学校と交流先とをつなぐコーディネーター役となる機関の設置等が考えられよう。

付録　「国際教育･国際交流」に関するアンケートの内容

「国際教育･国際交流」に関するアンケート

以下の項目につきまして、ご回答賜りたくお願い申し上げます。
前年度までの過去５年間と本年度を含めたこれからの活動も併せてお願い致します。
（レイアウトが損なわれても構いませんので、この用紙に直接ご入力ください。）

学校名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

１．幼児・児童・生徒数（H26 年 6 月 1 日現在）をご記入ください。

幼稚部（　　）名　　小学部（　　）名　　中学部　　（　　）名
高等部（　　）名　　専攻科（　　）名

２．国際理解につながるような教育活動の有無についてご記入ください。（過去５年間の様子を教えてください。）

当てはまるところに「○」をご記入ください。

a. 幼稚部から専攻科までの、いずれかの部もしくは学校全体で、国際理解につながるような教育を行ったことがある。（　　）

b. 幼稚部から専攻科まで、いずれの部でも、国際理解につながるような教育を行ったことがない。（　　）

３．２で a に「○」をつけた学校におたずねします。国際理解につながる教育は、どの部のどの枠組みで行いましたか。

該当する項目すべてに「○」をご記入ください。

	幼稚部	小学部	中学部	高等部	専攻科	全校
英語の授業の中で行った。						
ALT による英語の授業の中で行った。						
英語以外の授業の中で行った。						
特別活動の中で行った。						
総合的な学習の時間の中で行った。						
行事として行った。						

（１）授業の中で行ったとお答えになった学校におたずねします。
授業の内容について教えてください。簡単で結構です。（複数回答可）

例①：英語の授業で、さまざまな国の文化やことばのなりたちについて調べた。
例②：家庭科の授業で世界の食生活の違いを調べて発表した。
例③：保健体育の授業で、それぞれの国で盛んに行われているスポーツの特徴について調べた。

授業（教科名）や活動	**内容**

（２）特別活動、総合的な学習の時間、行事の中で行ったとお答えになった学校におたずねします。
扱った内容や様子について教えてください。簡単で結構です。（複数回答可）

例①：生徒会で海外の学校のための募金活動をした。

例②：総合的な学習の時間で興味を持つ国の歴史や産業について調べて発表した。

例③：文化祭で映画を制作するために、海外の映画祭受賞作品について調べた。

授業（教科名）や活動	内容

４．国際交流活動の有無についてご記入ください。（過去５年間の様子を教えてください。）

当てはまるところに〇をご記入ください。

a. 幼稚部から専攻科までの、いずれかの部もしくは学校全体で、国際交流活動を行ったことがある。（　　）

b. 幼稚部から専攻科まで、いずれの部でも、国際交流活動を行っていない。（　　）

５．４でａに「〇」をつけた学校におたずねします。どのような国際交流活動を行いましたか。

当てはまるところすべてに〇をご記入ください。

a. 海外の人の訪問を受け入れたことがある。（　　）

b. 海外の学校を訪問したことがある。（　　）

c. 相互に訪問はしていないが、交流活動をしたことがある。（　　）

d. その他　具体的にご記入ください：

（１）５でａに〇をつけた学校におたずねします。
相手国の国名と学校名もしくは団体名、時期、経緯について教えてください。

（個人の場合は国名のみで結構です。）

国名　：　　学校名：　　時期：20　　年　　月

経緯　（　　）自治体からの紹介　（　　）民間団体からの紹介　（　　）学校が計画を立てて進めた

（２）５でｂに〇をつけた学校におたずねします。
相手国の国名と学校名もしくは団体名、時期、経緯について教えてください。

（個人の場合は国名のみで結構です。）

国名　：　　学校名：　　時期：20　　年　　月

経緯　（　　）自治体からの支援や紹介　（　　）民間団体からの支援や紹介
（　　）学校が計画を立てて進めた

（３）５でｃに〇をつけた学校におたずねします。
交流の内容について教えてください。該当する項目すべてに「〇」をご記入ください。

（　　）文通　（　　）メール　（　　）スカイプなどを使用した通信　（　　）絵画などの作品交流

（　　）その他　具体的にご記入ください：

６．国際教育・国際交流でのメリットはどのようなところにあると思われますか。

該当する項目すべてに「○」をご記入ください。

（　　）グローバル感覚の育成・向上　（　　）幼児児童生徒の視野の拡大

（　　）外国語力の向上

（　　）その他　具体的にご記入ください：

７．国際教育・国際交流を行っていく上で困難に感じていることや課題はどんなことだと思われますか。

該当する項目すべてに「○」をご記入ください。

（　　）時間数確保の問題　（　　）経費の問題　（　　）校内体制の問題

（　　）外部機関や海外の方とのつながりのなさ

（　　）その他　具体的にご記入ください：

８．今後、海外の学校や人々との交流の予定があれば教えてください。

国名	学校名	時期
交流のおおよその内容		

以上です。ご協力ありがとうございました。